

(参考資料)

自動車使用の合理化 について

「自動車使用の合理化」は、事業者の皆様にも、従業員や地域の皆様にも、さまざまなメリットがあります。

この資料を参考に、ぜひ、さらなる「自動車使用の合理化」をご検討ください。



東京都 環境局

1. 効果的な取組みのために

「効果が大きく、簡単にできる」取組みから、一つずつ進めていくことが効果的です。

- ✓ 限られた人材・時間・費用の中で「自動車使用の合理化」に取り組むためには、種々の取組みを「効果」と「容易さ」の観点で分類することが有効です。
- ✓ 簡単にできて、大きな効果が見込まれる取組みである「Aグループ」の取組みから優先して実施することが有効です。 その取組み結果を踏まえ、コスト負担や関係者との調整等の課題をクリアすれば大きな効果が見込まれる「Bグループ」の取組みや、効果は小さいが簡単にできる「Cグループ」の取組みに取り組んでいくことで、より大きな効果が期待できます。

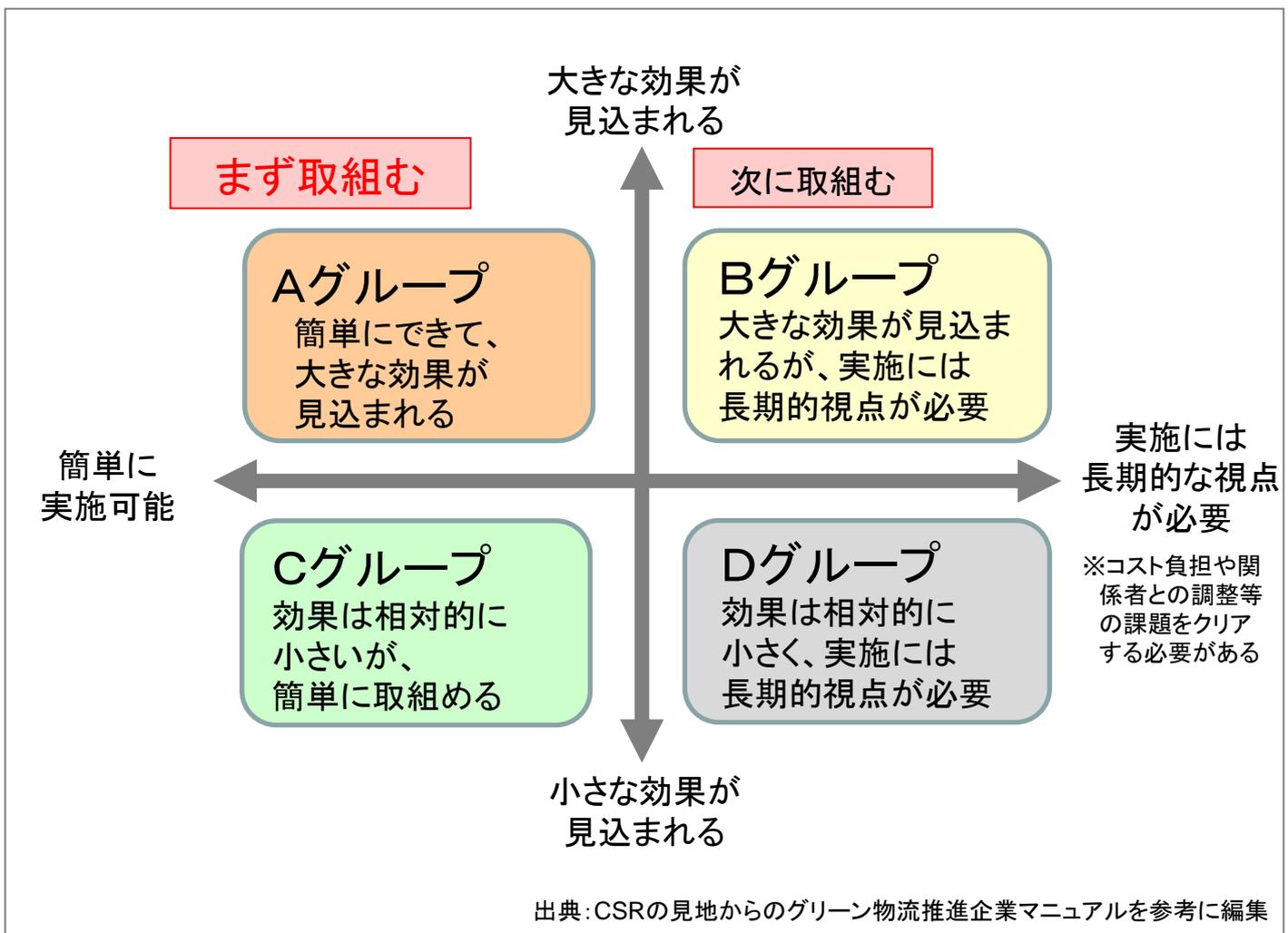


図 環境配慮対策の費用対効果でみた類型化

2. 具体的な取組み

✓ 自動車使用の合理化のための具体的な取組みは、以下の4種類に分類されます。

- ・ 自動車をかしく運転する取組み（エコドライブ）
- ・ 自動車を効率的に使うための取組み（車両の有効利用の促進）
- ・ 効率的にものを運ぶための取組み（物流の対策）
- ・ マネジメント（経営）の観点からの対策

✓ それぞれの取組みについて、「効果」と「容易さ」の観点からグループ分けできます。次頁以降で、個々の取組みについてご紹介します。

表 「効果」と「容易さ」の観点からの分類

「効果」と「時間軸」による分類	かしく運転する（エコドライブ）	効率的に使う（車両の有効利用の促進）	効率的にものを運ぶ（物流の対策）	マネジメント（経営）面の対策
Aグループ 簡単にできて効果大きい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃費に関する定量的目標の設定 ・ アイドリングストップの徹底 ・ 空ぶかしや急発進、急加速の削減 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本方針の策定、推進組織の整備
Bグループ 効果は大きいが長期的視点が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコドライブマニュアルの策定、教育・訓練の実施 ・ 優良ドライバー表彰 ・ エコドライブ装置やデジタル式運行記録計の導入 ・ 機器の導入（エアヒーター、蓄熱マット等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共同輸配送の促進 ・ 商慣行の改善 ・ 効率的な輸送のための車両大型化 ・ 道路混雑時の輸配送見直し ・ 商品の標準化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自営転換（自家用貨物車から営業用貨物車への転換） ・ モーダルシフトの推進（鉄道、海運の活用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ISO14001の認証を取得 ・ エコアクション21等の環境マネジメントシステム認証を取得 ・ グリーン経営認証の取得
Cグループ 簡単にできるが効果は小さい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常点検・整備マニュアルの策定、教育・訓練の実施 ・ 日々の始業点検、定期点検の実施 ・ エアークリーナーの定期的な点検 ・ 運転日報の作成 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境報告書の作成 ・ 電車やバスの利用の促進 ・ 自転車や徒歩による移動の促進 ・ マイカー通勤の禁止
Dグループ 効果は小さく、長期的視点が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃費の記録管理 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 物流施設の高度化、物流施設の整備等 	

自動車をかしく運転する(エコドライブ)

自動車の使い方を改善することで、環境だけでなく、事業所のコストの改善にもつながります。

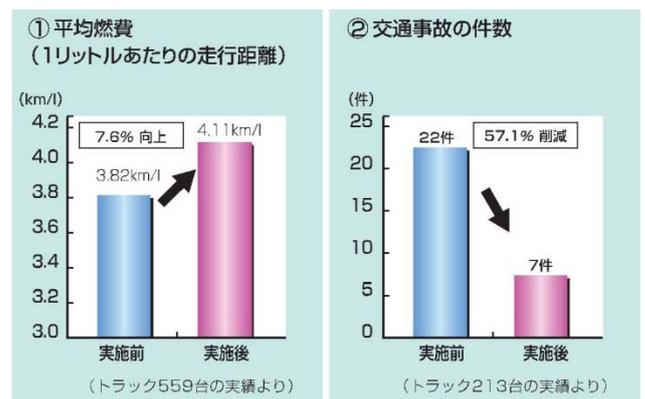
- ✓ 簡単にでき、かつ効果が大きい取組みとしては、「燃費に関する定量的目標の設定」や「アイドリングストップの徹底」等が挙げられます。
- ✓ 「エコドライブマニュアルの策定や訓練・教育の実施」「優良ドライバーの表彰」「エコドライブ装置やデジタル式運行記録計の導入」は、コストや労力が若干必要ですが、大きな効果を上げることができます。
- ✓ 東京都の「燃費管理サイト」は、燃費を簡単に記録することができ、エコドライブの効果把握に有効です。

事例1: エコドライブの訓練・教育や装置の導入

アイドリング・ストップの徹底や空ぶかし(ムダなアクセル操作)、急発進・急加速運転等の抑制等、環境と燃費にやさしい運転を「エコドライブ」と呼びます。

各自動車メーカーや都内の自動車教習所では、エコドライブのための講習会を実施しています。

また、エコドライブ支援装置(EMS)と呼ばれる装置を導入すると、リアルタイムに燃費が確認できたり、急発進やアイドリング時間等を記録・分析することができます。



出典: 東京都トラック協会

事例2: 燃費の記録・管理

自分の自動車の燃費を知ることは、エコドライブ実践の第一歩です。また、燃費データを継続して記録することで、エコドライブの「効果」を実感することができます。

東京都では、皆様のエコドライブの取組みを支援するため、「燃費管理サイト」を開設しています。

詳しくは、<http://tokyo-ecodrive.recoo.jp/>もしくは、「東京都 燃費管理」で検索してみてください。

自動車を効率的に使う(車両の有効利用の促進)

少ない自動車を効率的に使うことで、自動車にかかるコストが削減できます。

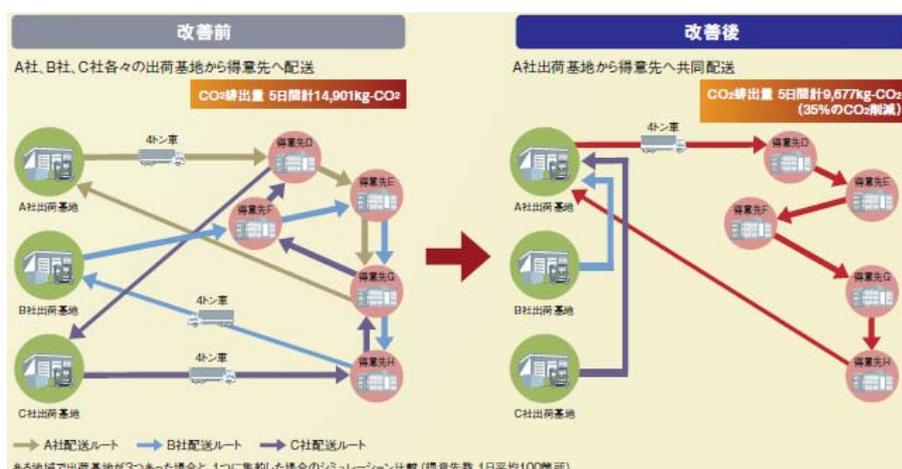
- ✓ 共同輸配送や道路混雑時の輸配送見直し、商慣行の改善(過度なジャストインタイムサービスや多頻度小口配送等の改善、)等の取組みにより少ない自動車を有効利用することで、リース費や車両保険費等、自動車にかかるコストを削減することができます。
- ✓ これらの取組みには、荷主や顧客の協力を得る必要がありますが、実現すれば大幅なコストダウンが期待できます。

事例1: 共同輸配送

物流コストの削減、運転手不足対策の観点から、メーカーや卸売業、物流業者等が共同して輸配送する事例が多くみられます。

右の図は、配達エリアが重複する3事業者が、配送を共同化した事例です。一つの出荷基地に他の2社の貨物を一度集積し、1社が一括して配達しています。

これによって、CO₂排出量が**35%削減**されています。



事例2: 商品の標準化

商品の包装の寸法、強度、材料、技法などを標準化することをいいます。

製品の設計・製造部門との調整が必要となりますが、保管スペースの無駄を減らすことができ、輸送量を向上させることができます。

右の写真は、従来のワンウェイの木箱包装から「金属製の通い箱」へ改善することによって、包装材の削減を図っています。



室外送風機の通い箱化
(株式会社日立物流)

効率的にものを運ぶ(物流の対策)

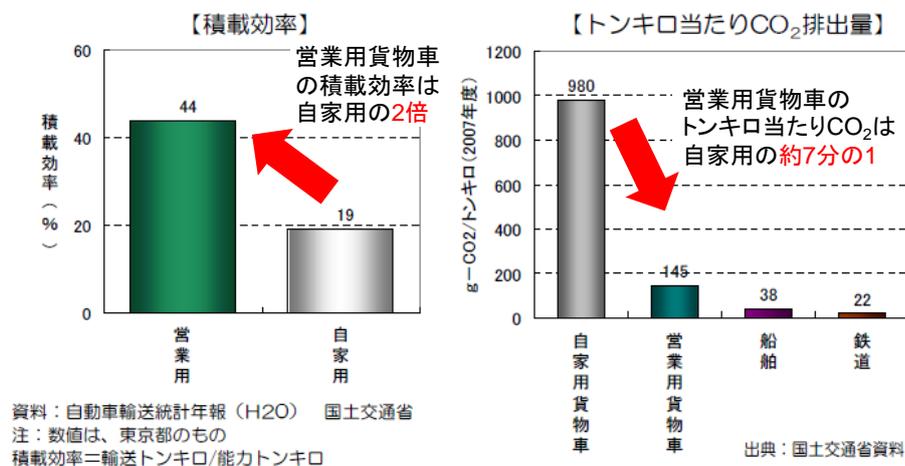
物流の効率化により、経営の改善と環境負荷の低減が期待できます。

- ✓ 自家用貨物車から営業用貨物車へ転換することで、効率的に貨物を輸送することができます。
- ✓ 輸送時間に余裕がある貨物は、鉄道や海運を有効活用（モーダルシフト）することで、コストも環境負荷も低減することが可能です。

事例1：自家用貨物車から営業用貨物車への転換(自営転換)

自家用貨物車は、営業用貨物車に比べ積載効率が低く、効率化の余地が大きくなっています。

現在自家用貨物車で運んでいる商品の一部を営業用貨物車に切り替えることで、自社の貨物車を削減することができ、コストや事故リスクの削減につながります。



事例2：鉄道や海運の活用(モーダルシフト)

モーダルシフトとは、トラックなどによる輸送を貨物列車や貨物船による輸送で代替することを言い、長距離輸送を一度に、大量に行うことで輸送効率の大幅な向上が見込めます。

モーダルシフトを推進するためには、十分に効率的であるだけの貨物量を確保しなければならないことや、貨物列車や貨物船からトラックへ積み替えるなど、関係者との調整が必要となってきます。

一般的に、排出量、輸送コスト、労働力が削減されますが、所要時間は増加します。

マネジメント(経営)面の対策

自動車使用の合理化の取組みは、
経営者の皆様が率先して取組むことが重要です

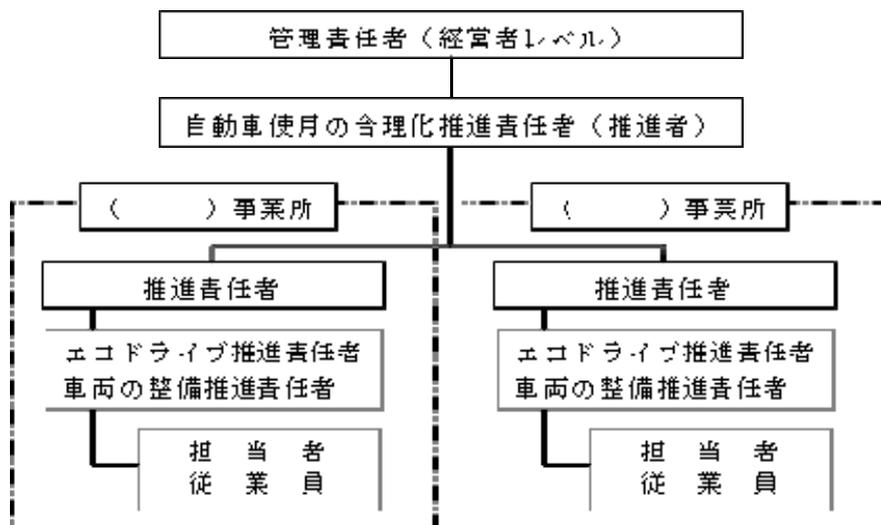
- ✓ 自動車使用の合理化に関する「基本方針の策定、推進組織の整備」は、簡単にでき、かつ大きな効果が期待できます。
- ✓ ある程度取組みが進んだら、「ISO14001」や「エコアクション21」等の環境マネジメントシステムの認証を取得することで、貴社の取組みを対外的にもアピールすることができます。

事例1: 推進組織の整備

自動車使用の合理化の取組みをうまく進めるためには、誰がどのような役割を担い、どのような責任や権限を持っているかを従業員に明確に示していく必要があります。

取組みを推進する「責任者」は、各事業所の環境負荷軽減対策の推進責任者や業務効率化を推進する責任者、本社や統括支店等の責任者等、自社の組織の実態に合わせて選定することが重要です。

中小の事業者では、対策の推進が特定の個人に任されてしまうことが多いと考えられますので、企業としての「雰囲気作り」や「環境配慮に向けた機運の醸成」などによる全社的なサポートが重要となります。企業として対策を推進しやすい環境を作り出すためには、経営者の積極的な関与が重要です。



(参考) 自動車使用の合理化のメリットは？

「自動車使用の合理化」は、事業者の皆様にも、従業員や地域の皆様にも、さまざまなメリットがあります。

事業所にとって.....

- 自動車にかかわる様々な**費用の節減**が期待できます。
自動車のリース費用や車両保険費用、ガソリン代や駐車場代、ドライバーにかかる費用等、自動車の使用には様々なコストがかかります。自動車使用の合理化により、これらのコストの削減が期待できます。

そのほかにも.....

- 運転時の事故減少等、従業員の**安全管理**のメリットも期待できます。
- 自動車の運転に費やしていたマンパワーを他に使うことで、「仕事の質の向上」や「新規顧客の獲得」につながった事例もあります。
- **企業イメージの向上**を図ることができます。

環境への取組みやCSR※)の一環として、環境報告書に記載することができます。



※) Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任

従業員・地域にとって.....

- 自動車の使用が合理化されることで、交通事故のリスクが減り、従業員の**安全**が確保されます。
- 自動車の使用が減ることで、地域の**大気環境の改善**が期待されます。
- **地球温暖化防止**や**渋滞の緩和**に寄与します。



「自動車環境管理計画書制度」のお問い合わせ先

東京都環境局 自動車公害対策部 規制課 監察係
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 第二本庁舎16階北側
TEL：03-5321-1111 内線42-595~8